特集 北海道・北東北の縄文遺跡群 世界遺産登録決定

■問合せ　社会教育課（☎74-3010）

〈高砂貝塚〉

〈入江貝塚〉

入江・高砂貝塚 世界遺産の構成資産に

入江・高砂貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を審査する第44回世界遺産委員会拡大会合が7月27日（火）、オンライン上で行われ、縄文遺跡群の登録が決定しました。

27日夜には、役場防災ホールで会合のインターネット中継が行われました。当日は、入江・高砂貝塚の保全や世界遺産登録に向けた周知活動などに携わった関係者など約25人が出席し、審査結果の発表を固唾をのんで見守りました。

午後7時ごろ、待望の登録決定の一報がスクリーン越しに伝わると、ホールから大きな拍手が鳴り響き、出席者全員で万歳三唱して新たな世界遺産の誕生を喜びました。

真屋町長は「多くの人に貝塚を見ていただけるよう地域と一緒に守っていきたい」と保全と活用の意気込みを語りました。

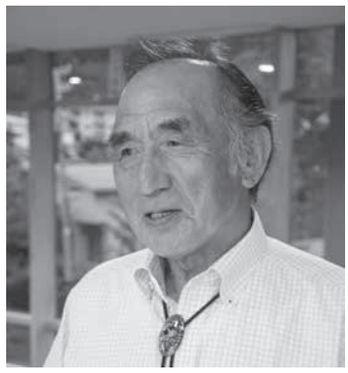
「ようやく価値が認められた」道内初の世界文化遺産が誕生

世界遺産登録を万歳三唱で祝う出席者

貝塚の情報発信に取り組んできた「アプタ・フレナイの会」の神馬久夫会長は「ようやく貝塚の価値が世界に認められました」と、長年の苦労が報われたことに笑顔が絶えませんでした。

北海道・北東北の縄文遺跡群は、道、青森県、岩手県、秋田県にある17の考古遺跡で構成。2019年7月に世界文化遺産登録推薦候補に選ばれ、昨年9月に行われたイコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査を経て、今年5月に世界文化遺産に登録勧告されました。国内の世界遺産の件数（自然遺産含む）は北海道・北東北の縄文遺跡群で25件目。道内では「知床」に続く2件目で、世界文化遺産としては初となります。

北海道・北東北の縄文遺跡群　世界遺産登録
関係者から喜びの声



アプタ・フレナイの会 神馬久夫さん

―ついに北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録が実現しました

「長い年月が流れてしまいましたが、登録に向けた議論が進み、ようやく世界遺産として認めてもらうことができました。一町民として感激しています」

―これまでの活動を振り返ってください

「アプタ・フレナイの会が発足して18年が経ちます。会で縄文文化について学び、研修や視察を続けました。さらに、縄文文化の体験会や縄文祭り、講座などを開いて縄文の魅力を伝えながら会友を増やしてきました。

発足当初から比べると、入江・高砂貝塚の認知が少しずつ広まったと感じます。地道な活動の成果が表れたと思います」

―今後はどのような活動を予定していますか

「世界遺産にふさわしい活動を考えたいと思います。地元の人が入江・高砂貝塚を誇れるようにしたいです。これまでも縄文文化の魅力を発信し続けてきましたが、まずは関心をもってもらうことから始めなければならないでしょう。

会員も縄文についての知識を深めなければいけません。縄文遺跡群の構成資産がある他地区に負けないよう、もっと地元を盛り上げたいと思います」

入江・高砂貝塚整備委員長 小林達雄さん（國學院大学名誉教授）

―北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録されることになりました

「登録のための努力がようやく実りました。縄文文化を象徴する2つの文化財が、世界遺産の重要な一角を占めることになります」

―北海道・北東北の縄文遺跡群の価値とは

「噴火湾や周辺の山の幸をもとにして縄文人が生活を営んでいたことを示している入江・高砂貝塚をはじめ、北海道・北東北の縄文遺跡群は人々が自然と共存共生したことを物語っています。これは世界的にも稀有なことです。

自然を征服の対象とし、効率や利便性を追求するあまり、さまざまな問題を引き起こした大陸側の文化とは異なります。

自然との共存共生にこそ縄文文化の真骨頂があります。縄文人は、自然と共に生きるための哲学のようなものをおのずから考え出していたのでしょう。それは、現代のSDGs（持続可能な開発目標）の走りとも言える考えだったはずです」

―貝塚を守るために必要なことは何でしょうか

「町外の人も無料で来館できるようにしてはどうでしょうか。縄文文化になじみがない人も利用しやすくした方が良いでしょう。保全するだけでなく将来の行く末を考えるために、まずは行政と住民が世界文化遺産に登録された意義を理解することです。今回の登録をお祭り騒ぎで終わらせてはいけません。縄文遺跡には、現代人が明日に向かって進むためのヒントが秘められています」

入江・高砂貝塚館リニューアルオープン

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録に先立つ7月21日（水）、入江・高砂貝塚館がリニューアルオープンしました。真屋町長、洞爺湖町議会大西智議長、入江・高砂貝塚整備委員会小林達雄整備委員長、アプタ・フレナイの会神馬久夫会長がテープカットし、貝塚館の新出発を祝いました。

リニューアルした貝塚館は、展示コーナーを4エリアに分けて縄文文化を解説。出土品や解説パネルも大幅に増やし、内容を充実させました。

テープカットする出席者